



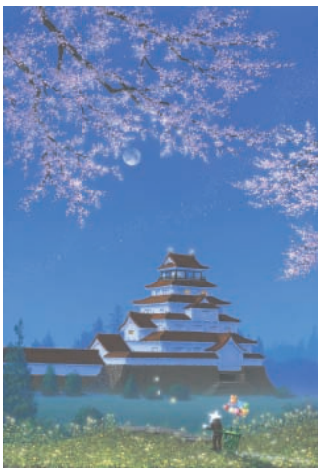
ようやく暖かな春の光に包まれ、桜の蕾もほころび始めて参りました。皆様、お変わりございませんか？

新しい季節の訪れと共に、私達の活動もまた次の一步を踏み出し始めました。いつも温かく支えていただきまして、本当にどうもありがとうございます。

さて、「被災地のふるさとの未来を輝かす心の原風景」の第三作目もおかげ様で無事完成させる事が出来ました。今回の作品を創作するに至った経緯を少しだけお話しさせていただきたいと思えます。

第三作目の作品は、福島を桜を描こうと以前から決めておりました。予定通り二月半ば頃から、いわき市久之浜の作品を創作してありますが、どうしても私のふるさと、会津若松の鶴ヶ城の桜を描きたいという思いが深まり、急遽三月に入ってから描き直す事になりました。

震災から一ヶ月余り経った、昨年の四月中旬。少しでもふるさとの方々に元氣をお届けしたいと願い、私は紙芝居のライブをご覧いただくために、会津を訪れました。その時、会津の方々は一丸となって、警戒区域から避難されている多くの方々に支えておりました。原発事故による風評被害で、観光に大きな影響を受けながらも、献身的にボランティア活動に励む皆様の姿に、私は脈々と受け継がれて来た会津魂を感じました。遠く離れているふるさとに、私が今出来ることは、せめて愛するふるさとの誇りと感謝を作品に込めて描くことです。そんな思いを込めた作品を、ようやく皆様にこうしてお届け出来ます事、心から嬉しく思っております。どうか作品を通して、美しい会津の春を感じていただけたら幸いです。



第三作目「誇りは輝く光となって」



★上の写真は、二年前の春に会津の町中をスケッチする為に、祐希と二人で鶴ヶ城を訪れた時のもの。残念ながら、まだ桜は咲いていませんでした。

皆様、こんにちは！いつもありがとうございます。います。はせがわ芳見です。

今回、はせがわの創作の原点である、ふるさとへの思いのこもった作品に「誇りは輝く光になって」というタイトルをつけました。震災が起こる少し前に、ちようど鶴ヶ城は、戊申戦争当時の赤瓦に再建されたばかりで、四月には盛大にお城の桜祭りを行うはずでしたが、桜祭りは中止。お話は、昨年四月中旬に会津若松市や喜多方市の避難所の皆様に、紙芝居の活動にお伺いした時の地域の皆様との触れ合いや、会津の街の様子をもとに創作しました。

第一作「夢をつなぐ希望の道」「夢をつなぐ命のきずな」、第二作「愛しき故郷へ未来からの贈り物」の作品にもお話を創作しており、先日、三月十一日に開催された鎮守氷川神社様での「東日本大震災復興祈念朗読会」で、三作全ての作品を朗読致しました。

今後は、四月十一日(水)に、秋葉原で開催される震災復興支援イベント「春ひろば」のステージで、太鼓と篠笛のジョイントの朗読公演を行います。(※十日、十三日まで、同会場にて、紙芝居の紹介や、復興祈念作品の原画展示等のブースの開催も致します！)

五月四日(金)には、埼玉・岩槻の久伊豆神社様にて、雅楽と舞と共に紙芝居と朗読を行う予定です。是非、お話の世界観からも作品を感じていただけたらうれしいです。皆様のお越しを心よりお待ちしております。

それでは、もうすぐ訪れる春爛漫の風に乗って、被災地の皆様や大切な皆様方の心に、スターリイマンの夢を叶える9つの風船がふんわりと届きますように：☆  
季節の変わり目、どうかご自愛くださいませ。

平成二十四年三月三十一日

はせがわファミリィ



3/11 鎮守氷川神社での復興祈念朗読講演会の様子



「あいづ総合体育館」にてボランティア活動を頑張っていた地元の小学生達

